言葉の釣り糸を垂らす

いしい しんじ

（筆者は、自分の心の奥底に釣り糸みたいに言葉を垂らしてみると、忘れてしまったと思っていたもの、日頃から思っていても言葉になっていない気持ち、まだ起きていないことなどが、言葉の周りにくっついて、意識の上に現れてくると述べています。）

言葉を書くということは、世の中にある、見える言葉をいろいろとつなぎ合わせて、人に読ませるための文章を作るだけじゃない。普段からも、誰かに手紙を書いたり、メッセージを送ったりしますね。そういうとき、不意に、自分の中へ、ある言葉が沈んでいくことがある。自分の中に眠っているけれども、日常の暮らしでは気づいていない何か、それをざっと集めて、大きくすることが、言葉にはできるんですね。

言葉とは、過去・現在・未来の記憶を引っ掛ける、釣り針みたいなものです。何もないと思っていたのに、実はこんなにいっぱい沈んでいたのか、と、ある言葉を自分の中に浸すだけで、ふわっと内側からわかってきます。

僕が勧めたいのは、①どんなことについても、自分の中に言葉を垂らしてみること。するとほぼ必ず、それまでの自分が思ってもみなかった何かがくっついてきてくれます。

遊びの瞬間でも、仲のいい誰かとご飯を食べているときでも、夫婦二人で黙って散歩しているときも、試みに、ある言葉を自分の中にすっと垂らすと、自分の中から、それまでになかった光が差し、外にあふれてくる。ひょっとして、②こういうことは、生きていていちばん大事なことなんじゃないか、と僕は思います。自分の中にある、眠っているものをかき立てながら生きていくというのは。

僕たちはずっと言葉を使って、言葉を交わして、言葉でいろんなものを自分の中へ収めていきます。それはいつしか、言葉の形をほどいて、意識の水底へ、ゆっくりと沈んで目に見えなくなります。でも、それは消えないんですよ。目に見えない、言葉になっていない記憶や未来からの光が、実は僕たちの生を底から支えている。③「書く」ことは、自分の本当の生を、言葉の形で取り戻すことにほかならないのです。

確認テスト

本文を読んで、問いに答えなさい。

(1) ――線①「どんなことについても、自分の中に言葉を垂らしてみること」とあるが、自分の中に言葉を垂らすとどのようなことが起こるのか。次の文の（　　）に入る言葉を本文中から三十字以上三十五字以内で探し、最初と最後の三字を答えなさい。ただし句読点も字数に含む。

自分の中に言葉を垂らすと、（　　）が言葉にくっついて現れる。

□□□～□□□

(2) ――線②「こういうこと」とは何か。適当なものを選びなさい。

ア 遊びのときや仲がいい人と過ごすときでも、きちんと言葉を交わすこと。

イ それまで自分になかったものを求めて、外に出て行こうとすること。

ウ 自分の中にある、眠っているものをかき立てながら生きていくこと。

〔　　〕

(3) ――線③『書く』ことは、自分の本当の生を、言葉の形で取り戻すことにほかならない」とあるが、なぜこのように言えるのか。適当なものを選びなさい。

ア 「書く」ことを通じて、誰かにメッセージを送ったり、コミュニケーションを取ったりすることができるから。

イ 「書く」ことを通じて、自分の中へ収めるものを目に見えるようにし、忘れずに記憶し続けることができるから。

ウ 「書く」ことを通じて、実は自分の生を意識の底で支えている目に見えないものが、言葉になって現れるから。

〔　　〕